

平成20年12月18日

薬事・食品衛生審議会
食品衛生分科会長 吉倉 廣 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成20年9月18日厚生労働省発食安第0918001号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくクロチアニジンに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

(別添)

クロチアニジン

1. 品目名：クロチアニジン (clothianidin)

2. 用途：殺虫剤

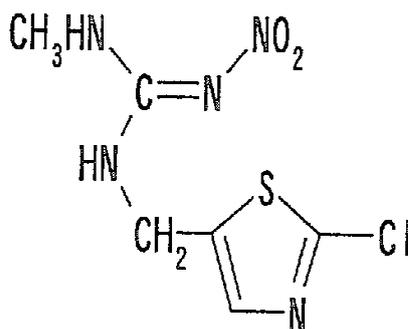
ネオニコチノイド系殺虫剤である。作用機序は、主にニコチン性アセチルコリン受容体アゴニスト作用によるものと考えられる。

3. 化学名：

(*E*)-1-(2-chloro-1, 3-thiazol-5-ylmethyl)-3-methyl-2-nitroguanidine (IUPAC)

[*C* (*E*)]-*N* -[(2-chloro-5-thiazolyl)methyl]-*N*' -methyl-*N*" -nitroguanidine (CAS)

4. 構造式及び物性



分子式	C ₆ H ₈ ClN ₅ O ₂ S
分子量	249.68
水溶解度	0.327 g/L (20°C)
分配係数	logPow = 0.7 (25°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法は以下のとおり。

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類 イネトオムシ	4000倍	60～150 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、 本田では3回以内)
	ウカ類 カメシ類 イネトオムシ	1000倍	25L/10a				
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマグロヨコバイ フタホヒコヤガ	200倍	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L)	移植3日前～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	
	イネトオムシ イネミスリウムシ	200～ 400倍	1箱当たり 500mL				
きゅうり	シシトウアザミウマ アブラムシ類 コジラミ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
メロン	アブラムシ類	4000倍					
	コジラミ類 シシトウアザミウマ	2000～ 4000倍					
	トマトハモグリバエ	2000倍					
すいか	アブラムシ類	4000倍	2000倍				4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
	シシトウアザミウマ ウリハムシ						

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
なす	ミキイロアザミウマ ハモグリバエ類	2000倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	アブラムシ類 マメハモグリバエ コナジラミ類	2000～ 4000倍					
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	2000倍					
	ハモグリバエ類						
ピーマン	アブラムシ類 コナジラミ類	2000～ 4000倍					
	ミキイロアザミウマ	2000倍					
だいこん	アブラムシ類	2000～ 4000倍		収穫7日前まで	2回以内		3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、 は種後は2回以内)
レタス	ハモグリバエ	2000倍		3回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、 散布は2回以内)			
キャベツ	アブラムシ類	2000～ 4000倍		収穫3日前まで			3回以内 (は種時の散布、 育苗期の株元処理及び定植時の 土壌混和は合計1回以内、散布は 2回以内)
	アオムシ ヨカガ	2000倍					

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	
ねぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	4回以内	散布	4回以内 (植付時の植溝処理は1回以内、株元散布は2回以内)	
ばれいしょ	アブラムシ類	4000倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内		4回以内 (植付時の土壌混和は1回以内、植付後は3回以内)	
	テントウムシダマシ類	1000倍						
てんさい	カメノコハムシ テンサイモグリハバエ アブラムシ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	1回	苗床 灌注	4回以内 (定植前の苗床灌注は1回以内、散布は3回以内)	
	テンサイヒメハムシ テンサイモグリハバエ カメノコハムシ	100～ 200倍	1L/ペーパー ポット1冊 (3L/m ²)	定植前				
豆類 (種実、ただし、 だいず、らっかせい を除く)	アブラムシ類	2000～ 4000倍	100～300 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
だいず	マメシクガ	2000倍						
	アブラムシ類 カメシ類 フタスジヒメハムシ	2000～ 4000倍						
かぼちゃ	アブラムシ類							収穫3日前まで
にがうり	シキイロアザミウマ							収穫前日まで
フゲンソイ	アブラムシ類	収穫14日前まで						

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
みょうが (花穂)	ナス科カガラムシ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布、但し 花穂の発生期には マルチ被覆により 散布液が直接 花穂に飛散 しない状態 で使用する	3回以内
みょうが (茎葉)				みょうが(花穂) の収穫前日まで 但し、花穂を収穫 しない場合にあつては 開花期終了まで			
みずな	アブラムシ類	2000～ 4000 倍		収穫7日前 まで		散布	
オクラ				収穫前日 まで			
れんこん	クワイクビレアブラムシ			収穫7日前 まで			
えだまめ	アブラムシ類 カメムシ類			収穫3日前 まで			
ブロッコリー	アオムシ	2000 倍				4回以内 (は種時の 散布、育苗期 の株元処理 及び定植時 の植穴処理 土壌混和は 合計1回以内、 散布は3回以内)	
	アブラムシ類						
にら	ネギアザミマ アブラムシ類		3回以内				

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
非結球レタス	アブラムシ類	2000～4000倍	100～300 L/10a	収穫3日前まで	2回以内	散布	3回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、散布は2回以内)
	ナメグリハエ	2000倍					
アスパラガス	アブラムシ類 ネギアザミウマ ジュウホシヒゲナガハムシ	2000～4000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3回以内		3回以内
りんご	カメムシ類 キンモンホリガ キンモンハメグリガ シクイムシ類 アブラムシ類 コカカイラムシ類 リンゴワタムシ ケムシ類			収穫前日まで			
なし	シクイムシ類 アブラムシ類 コカカイラムシ類 カメムシ類 ケムシ類			収穫前日まで			
すもも	アブラムシ類	4000倍	200～700 L/10a	収穫3日前まで	3回以内		3回以内
もも	アブラムシ類 モモハメグリガ シクイムシ類 カメムシ類	2000～4000倍		収穫7日前まで			
		コガネムシ類	2000倍				

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数		
おうとう	オウトウシヨウジヨウバエ カメシ類	2000 倍		収穫前日 まで	2 回以内		2 回以内		
うめ	ケシ類	2000～		200～700 L/10a	収穫 7 日前 まで		3 回以内	散布	3 回以内
	アブラムシ類 カメシ類								
ぶどう	コカイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ	4000 倍		収穫前日ま で					
かんきつ (みかんを 除く)	ミカンバエ ミカンキシラミ	2000 倍	2000～ 4000 倍	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布			
	アブラムシ類 ミカンモグリガ アザミウマ類 ケキシイ類 コアオハナムグリ ツノロムシ コカイガラムシ類 ゴマダラカミキリ カメシ類 アゲハ類 アカマルカイガラムシ								
みかん	ミカンバエ ミカンキシラミ	2000 倍	100mL/樹	収穫 150 日 前まで	1 回	樹幹 散布	4 回以内 (樹幹散布は 1 回以内、 散布後は 3 回 以内)		
	ミカンモグリガ								
かんきつ (苗木)	ミカンモグリガ ゴマダラカミキリ	20 倍	10～ 100mL/樹	春芽・夏芽 又は秋芽 の発生前	3 回以内	散布	3 回以内		
かき	カキノヒメヨコバイ	4000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前 まで					
	チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ コカイガラムシ類 カキノハナムシガ カメシ類	2000～ 4000 倍							

(1) 16.0%クロチアニジン水溶剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
マンゴー	アザミヤ類 コカカラムシ類	2000～ 4000 倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
いちじく	アザミヤ類			収穫3日前まで			
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ シクイムシ類 カメムシ類	2000 倍					
	コガネムシ類						
あんず	アブラムシ類	4000 倍					
とうがん	シキイロアザミウマ	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで			
食用へちま	アブラムシ類						
パパイヤ	カカカラムシ ヒラカカラムシ		200～700 L/10a	収穫3日前まで			
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメコハバイ チャノホガ	2000～ 4000 倍	200～400 L/10a	摘採7日前まで	1回		1回
	コミカンアブラムシ	4000 倍					

(2) 1.0%クロチアニジン 1 キロ粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (但し本田期は 3 回以内)

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3kg/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布は 1 回以内、本田では 3 回以内)
	カメムシ類	3~4kg/10a				
稲 (箱育苗)	イネトオムシ イネズリウシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当り 50g	移植 3 日前 ~ 移植当日	1 回	育苗箱の 苗の上から均一に 散布する	4 回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計 1 回以内、散布 は 3 回以内)
きゅうり	コジラミ類 アブラムシ類 シメキイロアザミウマ	1g/株	育苗期後半		株元処理	
	コジラミ類	1~2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	アブラムシ類	1~2g/株				
	シメキイロアザミウマ	2g/株				
すいか	アブラムシ類 シメキイロアザミウマ	1~2g/株				4 回以内 (定植時の土壌 混和は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
メロン	アブラムシ類 コジラミ類	1g/株	育苗期後半		株元処理	4 回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計 1 回以内、散布 は 3 回以内)
	コジラミ類	1~2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	アブラムシ類					
	シメキイロアザミウマ トマトハモグリバエ	2g/株				

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
なす	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	育苗期後半	1回	株元処理	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	アブラムシ類 マメハモグリハエ コナジラミ類		定植時		植穴処理 土壌混和	
トマト ミニトマト		1~2g/株			株元処理	4回以内 (鉢上時の株元処理、育苗期後半の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株	育苗期後半 鉢上時		株元処理	
	トマトハモグリハエ	2g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
だいこん	アブラムシ類	3~6kg/10a	は種時		播溝処理 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、は種後は2回以内)
レタス		0.5g/株	育苗期後半		株元処理	3回以内 (育苗期の株元処理は1回以内、散布は2回以内)
非結球レタス						
キャベツ	アブラムシ類 ハイマダラノメカイ	0.25g/株	は種時		覆土後セル 成型育苗トレイの上から 散布する	3回以内 (は種時の散布、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)
	ネリムシ類 コカ アオムシ ハイマダラノメカイ	0.5g/株	育苗期後半		株元処理	
	アブラムシ類	1g/株	定植時	植穴処理 土壌混和		
	ハイマダラノメカイ	1~2g/株				
	コカ アオムシ	2g/株				

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	
ブロッコリー	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25g/株	は種時	1回	覆土後セル 成型育苗トレイ の上から 散布する	4回以内 (は種時の散布、 育苗期後半の株 元処理及び定植 時の土壌混和は 合計1回以内、散 布は3回以内)	
	コガ アオムシ アブラムシ類	0.5g/株	育苗期後半		株元処理		
	アブラムシ類	1g/株	定植時		植穴処理 土壌混和		
	コガ アオムシ	2g/株					
ねぎ (露地栽培)	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	6kg/10a	植付時	2回以内	植溝処理 土壌混和	4回以内 (植付時の植溝 処理は1回以内、 株元散布は 2回以内)	
		3~6kg/10a	収穫21日前 まで		株元散布		
ばれいしょ	アブラムシ類	6kg/10a	植付時	1回	植溝処理 土壌混和	4回以内 (植付時の土壌 混和は1回以内、 植付後は3回以内)	
かんしょ	コガネムシ類				作条処理 土壌混和		1回
	アブラムシ類				育苗期		
ピーマン	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半	1回	株元処理	3回以内 (育苗期の株元 処理及び定植時 の土壌混和は合 計1回以内、散 布は2回以内)	
			定植時		植穴処理 土壌混和		
いちご						1回	

(3) 0.50%クロチアニジン粒剤 (つづき)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
かんきつ (苗圃)	ミカンハモグリガ	10~20g/樹	育苗期	3回以内	株元散布	3回以内
げっきつ	ミカンシラミ	30~40g/株	発生初期	4回以内	生育期 株元処理	4回以内
さとうきび	ハリガネシ類	4~6kg/10a	植付時	1回	植溝処理 土壌混和	1回
れんこん	クワイヒレアブラムシ	6kg/10a	収穫7日前 まで	3回以内	湛水散布	3回以内
わけぎ (露地栽培) あさつき (露地栽培)	ネアサミマ ネハモグリハエ	3~6kg/10a	収穫21日 前まで	2回以内	株元散布	2回以内

(4) 0.15%クロチアニジン粉剤 DL

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は 1回以内、本田では 3回以内)
	イコ類	4kg/10a				
	イネトオイムシ フタホヒコヤカ	3kg/10a				
だいち	アブラムシ類 カメシ類 フラスジヒメムシ	4kg/10a	収穫7日前まで			3回以内

(5) 1.5%クロチアニジン箱粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ウカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネトオイムシ ニカメテユウ フタホヒコヤガ イネヒメモクシバエ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当り 50g	移植 3 日前 ～ 移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	4 回以内 (育苗箱散布は 1 回以内、本田では 3 回以内)

(6) 0.50%クロチアニジン H 粉剤 DL

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	カメムシ類 ウカ類 ツマグロヨコバイ イネコシテ イネツトムシ ニカメテユウ フタホヒコヤガ	3～4kg/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布は 1 回以内、本田では 3 回以内)
	イネトオイムシ	3kg/10a				
だいず	マメシクイガ	4kg/10a	収穫 7 日前まで			3 回以内
	アブラムシ類 カメムシ類 フタスジヒメハムシ	3～4kg/10a				

(7) 20.0%クロチアニジン水和剤（フロアブル）

作物名	適用 病害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロチアニジン を含む農薬 の総使用回数
稲	イコ類 ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	5000 倍	60～150 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布 は 1 回以内、 本田では 3 回 以内)
	ウカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類	90 倍	3L/10a			空中散布	
	ウカ類 カメシ類	24 倍	800mL/10a			無人ヘリコプターによる 散布	
		1250 倍	25L/10a			散布	
だいず	アブラムシ類 カメシ類 マメシクイガ	2500～ 5000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	アブラムシ類 カメシ類	24 倍	800mL/10a	無人ヘリコプターによる 散布			
ばれいしょ	アブラムシ類	5000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで		散布	4 回以内 (植付時の土 壌混和は 1 回 以内、植付後 では 3 回以内)

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

- ・ クロチアニジン

② 分析法の概要

試料をアセトンで抽出し、多孔性ケイソウ土カラム、中性アルミナミニカラム及びシリカカートリッジで精製した後、高速液体クロマトグラフにより定量する。

定量限界 0.002~0.05ppm。

(2) 作物残留試験結果

① 稲

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量^{注1)}は0.134, 0.104 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。^{注3)}

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び1.0%1キロ粒剤を計3回散布（1kg/10a）したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量は<0.004, 0.026 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.15%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量は0.048, 0.023 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~22日の最大残留量は0.02, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.07, 0.09 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液

を 0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、並びに16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布(150L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.14, 0.12 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、並びに0.5%粒剤を計3回散布(4kg/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.01, 0.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、並びに20.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計3回散布(150L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.12, 0.13 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、並びに20.0%フロアブルの24倍希釈液を計3又は4回RCH散布(0.8L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.04, 0.16, 0.16 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、並びに16.0%水溶液の1,000倍希釈液を3回散布(25L/10a)したところ、散布後7~28日の最大残留量は0.10, 0.07 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱及び20%フロアブル剤の1250倍希釈液を3回散布(25L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.15, 0.21 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(稲わら)を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、及び16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布(150 L/10a)したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量は0.11, 0.132 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲(稲わら)を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱(移植当日育苗施用)、及び1.0%1キロ粒剤を計3回散布(1kg/10a)したところ、散布後13^{注2)}~28日の最大残留量は0.118, 0.176 ppmであった。ただし、この試験

は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.15%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後13^{注2)}～28日の最大残留量は0.12, 0.142 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、及び0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～22日の最大残留量は0.72, 0.26 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粉剤DLを計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.28, 2.75 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに16.0%水溶剤の4,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.18, 0.78 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに0.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.17, 2.16 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに20.0%フロアブルの5,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.12, 1.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに20.0%フロアブルの24倍希釈液を計3又は4回RCH散布（0.8L/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は0.81, 2.57, 2.28 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の200倍希釈液を0.5L/箱及び2.5%箱粒剤を50g/箱（移植当日育苗施用）、並びに16.0%水溶液の1,000倍希釈液を3回散布（25L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は1.47, 0.79 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験(2例)において、2.5%箱粒剤を50g/箱及び20%フロアブル剤の1250倍希釈液を計4回散布（25L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.40, 3.51 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

②だいでず

だいでず（乾燥子実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150, 200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいでず（乾燥子実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び0.5%H粉剤DLを計4回又は3回散布（4kg/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01^{注4} ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいでず（乾燥子実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び20.0%フロアブルの2,500倍希釈液を計3回散布（200, 250L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

だいでず（乾燥子実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種時播溝処理土壌混和）、及び20.0%フロアブルの20～24倍希釈液を計4回散布（0.8L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

③ばれいしょ

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a（播種前播種溝処理土壌混和）、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.002, 0.016 ppmであった。

ばれいしょ（塊茎）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a（植付時植溝処理土壌混和）、及び20.0%フロアブルの2,500倍希釈液を計3回散

布 (200, 250L/10a) したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は <0.01 , 0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

ばれいしょ (塊茎) を用いた作物残留試験 (2 例) において、 0.5% 粒剤を $6\text{kg}/10\text{a}$ (植付時植溝処理土壌混和)、及び 16.0% 水溶剤の $1,000$ 倍希釈液を計 3 回散布 ($25\text{L}/10\text{a}$) したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は 0.03 , <0.01 ppm であった。

④かんしょ

かんしょ (塊根) を用いた作物残留試験 (2 例) において、 0.5% 粒剤を $9\text{kg}/10\text{a}$ 、定植時作条処理土壌混和として 1 回用いたところ、散布後 104~116 日の最大残留量は <0.01 , <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑤てんさい

てんさい (根部) を用いた作物残留試験 (2 例) において、 16.0% 水溶剤の 100 倍希釈液を計 1 回定植時苗床灌注 ($1\text{L}/\text{冊}$) したところ、散布後 160~175 日の最大残留量は <0.01 , <0.01 ppm であった。

てんさい (根部) を用いた作物残留試験 (2 例) において、 20.0% フロアブルの原液を 1 回種子コーティング ($489\text{mL}/100,000$ ペレット種子)、 16.0% 水溶剤の 100 倍希釈液を 1 回定植前苗床灌注 ($1\text{L}/\text{冊}$) 及び 2000 倍希釈液を 3 回散布 ($200, 500\text{L}/10\text{a}$) したところ、散布後 14~30 日の最大残留量は <0.01 , 0.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑥だいこん

だいこん (根部) を用いた作物残留試験 (2 例) において、 0.5% 粒剤を $6\text{kg}/10\text{a}$ (播種前播種溝処理土壌混和)、及び 16.0% 水溶剤の $2,000$ 倍希釈液を計 2 回散布 ($150, 200\text{L}/10\text{a}$) したところ、散布後 7~14 日の最大残留量は 0.016 , 0.014 ppm であった。

だいこん (葉部) を用いた作物残留試験 (2 例) において、 0.5% 粒剤を $6\text{kg}/10\text{a}$ (播種前播種溝処理土壌混和)、及び 16.0% 水溶剤の $2,000$ 倍希釈液を計 2 回散布 ($150, 200\text{L}/10\text{a}$) したところ、散布後 7~14 日の最大残留量は 0.84 , 2.26 ppm であった。

だいこん (つまみ菜) を用いた作物残留試験 (1 例) において、 0.5% 粒剤を $6\text{kg}/10\text{a}$ (播種前播種溝処理土壌混和) したところ、散布後 10 日の最大残留量は 0.48 ppm であった。

だいこん(間引き菜)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(播種前播種溝処理土壌混和)したところ、散布後22日の最大残留量は0.14ppmであった。

⑦キャベツ

キャベツ(葉球)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(200,300L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.18,0.16ppmであった。

⑧レタス

レタス(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(200,300L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.58,1.33ppmであった。ただし、この試験は適用範囲内で行われていない。

⑨ねぎ

ねぎ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a、定植時植溝処理土壌混和として1回、株元散布として4回散布したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.05,0.14ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

ねぎ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を1回播種前播種溝処理土壌混和(6kg/10a)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を4回散布(200,150L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.09,0.13ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑩トマト

トマト(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(250L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.226,0.120ppmであった。

⑪ピーマン

ピーマン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(200,150~200L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は1.21,1.02ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑫なす

なす(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(162.5

～200, 200L/10a) したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.290, 0.379 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑬きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（300, 200L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.695, 0.224 ppm であった。

⑭メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を 2g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（250, 300L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.038, 0.012 ppm であった。

⑮すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を 2 g/株（定植時植穴処理土壌混和）、及び 16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（250, 300L/10a）したところ、散布後 1～7 日の最大残留量は 0.022, 0.011 ppm であった。

⑯温州みかん

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（400L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.246, 0.086 ppm であった。

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布（400L/10a）したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 3.24, 1.09 ppm であった。

温州みかん（果肉）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の 20 倍希釈液を 1 回樹幹散布 (22.2, 13.3L/10a) 及び 2000 倍希釈液を計 3 回散布 (666, 800L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.02, 0.08 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

温州みかん（果皮）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の 20 倍希釈液を 1 回樹幹散布 (22.2, 13.3L/10a) 及び 2000 倍希釈液を計 3 回散布 (666, 800L/10a) したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.74, 2.96 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑰なつみかん

なつみかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.023, 0.292 ppmであった。

なつみかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.362, 2.18 ppmであった。

なつみかん（果実）^{注5)}を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.118, 0.726 ppmであった。

⑱すだち

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.297 ppmであった。

⑲かぼす

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.204 ppmであった。

⑳りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.155, 0.042 ppmであった。

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（350, 400L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.15, 0.06 ppmであった。

㉑なし

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（300, 500L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.39, 0.18ppmであった。

㉒もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布（400L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.124,

0.084 ppm であった。

もも（果皮）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は1.00, 2.04 ppm であった。

㉓ うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(700, 500~800L/10a)したところ、散布後7~28日の最大残留量は0.97, 1.12 ppm であった。なお、500~800L/10a 散布された1例については、適用範囲内で試験が行われていない。

㉔ おうとう

おうとう（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(625, 500L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は1.08, 1.96 ppm であった。

㉕ ぶどう

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300L/10a)したところ、散布後14~56日の最大残留量は0.506(大粒種), 1.43(小粒種) ppm であった。

ぶどう（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300L/10a, 400L/10a)したところ、散布後1~56日の最大残留量は0.66, 1.00 ppm であった。

㉖ かき

かき（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400, 500L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.11, 0.14 ppm であった。

㉗ 茶

茶（荒茶）を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は37.6, 2.42, 9.92 ppm であった。

茶（浸出液）を用いた作物残留試験(3例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計1回散布(400L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は36.4, 2.27, 8.70 ppm であった。

⑳いちご

いちご（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株、定植時植穴処理土壌混和として1回用いたところ、混和後62～104日の最大残留量は0.22, 0.06 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉑あんず

あんず（果実）を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(556, 500L/10a)したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.72, 1.06 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉒れんこん

れんこん（根）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を12kg/10a定植時植溝処理土壌混和として1回、散布として計3回用いたところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

れんこん（根茎）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を12kg/10a定植時植溝処理として1回、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300, 200L/10a)したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉓いんげんまめ

いんげんまめ（乾燥子実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(播種時播溝処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(150, 244L/10a)したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.01, 0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉔あずき

あずき（乾燥子実）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(播種時播溝処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300, 150L/10a)したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.09, 0.03 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㉕ブロッコリー

ブロッコリー（花蕾）を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.33, 0.07 ppmであった。

③④ アスパラガス

アスパラガス(若茎)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300 L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.10, 0.24 ppmであった。

③⑤ リーフレタス

リーフレタス(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(200~230, 238 L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は7.96, 6.67 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑥ サラダ菜

サラダ菜(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植穴処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計2回散布(150~200, 195L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は9.99, 4.41 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑦ えだまめ

えだまめ(さや)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(定植時植溝処理土壌混和)、及び16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(200, 300L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.69, 0.26 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

③⑧ なら

なら(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は6.18, 1.42 ppmであった。

③⑨ ネクタリン

ネクタリン(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(400, 500L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.64, 0.58 ppmであった。

④⑩ すもも

すもも(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(500, 400L/10a)したところ、散布後3~14日の最大残留量は0.10, 0.04 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④①ミニトマト

ミニトマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300~400L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.66 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

ミニトマト(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(300L/10a)したところ、散布後1~14日の最大残留量は0.90 ppmであった。

④②にがうり

にがうり(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(250, 180L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.28, 0.16 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④③チンゲンサイ

チンゲンサイ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を2g/株(定植時植溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(200, 300L/10a)したところ、散布後14日の最大残留量は0.16, 0.85 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④④みずな

みずな(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(播種時播溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(40~150, 227.8L/10a)したところ、散布後7~14日の最大残留量は1.07, 2.46 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑤おくら

おくら(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、0.5%粒剤を6kg/10a(播種時播溝処理土壌混和)、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(200, 100~150L/10a)したところ、散布後1~7日の最大残留量は0.36, 0.30 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑥マンゴー

マンゴー(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000倍希釈液を計3回散布(320L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.06 ppmであった。

マンゴー(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、16.0%水溶剤の2,000

倍希釈液を計 3 回散布 (320L/10a) したところ、散布後 7~21 日の最大残留量は 0.06 ppm であった。

④⑥いちじく

いちじく (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (400L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.27 ppm であった。

いちじく (果実) を用いた作物残留試験 (1 例) において、16.0%水溶剤の 2,000 倍希釈液を計 3 回散布 (200L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.07 ppm であった。

④⑦あさつき

あさつき (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 6kg/10a、*定植時植溝処理土壌混和として 1 回*、株元散布として 4 回散布したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.59, 0.96 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑧わけぎ

わけぎ (茎葉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、0.5%粒剤を 6kg/10a、*定植時植溝処理土壌混和として 1 回*、株元散布として 4 回散布したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.13, 0.04 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

④⑨食用へちま

食用へちま (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 2000 倍希釈液を計 3 回散布 (200L/10a, 360L/10a) したところ、散布後 1~7 日の最大残留量は 0.21, 0.16 ppm であった。

④⑩トウガン

トウガン (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 2000 倍希釈液を計 3 回散布 (267L/10a, 255L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.14, 0.20 ppm であった。

④⑪パパイヤ

パパイヤ (果実) を用いた作物残留試験 (2 例) において、16.0%水溶剤の 2000 倍希釈液を計 3 回散布 (200L/10a) したところ、散布後 3~14 日の最大残留量は 0.21, 0.12 ppm であった。

㊸さとうきび

さとうきび（茎）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を計1回土壌混和（植付時植溝処理）（6kg/10a）したところ、散布後259,302日の最大残留量は<0.005, <0.005 ppmであった。

㊹かぼちゃ

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、0.5%粒剤を1回定植時植穴土壌混和処理（2g/株）及び16.0%水溶剤の2000倍溶液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.06, 0.17 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

㊺みょうが

みょうが（花穂）を用いた作物残留試験（2例）において、16.0%水溶剤の2000倍希釈液を計3回散布（350L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は<0.05, <0.05 ppmであった。

なお、これらの試験結果の概要については、別紙1を参照。

注1）最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。

（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」）

注2）経過日数13日の試験については、本来最大使用条件下として定められた14日の試験成績の誤差範囲内とみなし、当該試験成績を暴露評価の対象としている。

注3）適用範囲内で実施されていない作物残留試験については、適用範囲内で実施されていない条件を斜体で示した。

注4）だいでず（乾燥子実）の圃場Bにおける試験については、定められた適用回数を超えて試験がなされているが、処理直後の降雨による再処理の結果によるものであることから、暴露評価の対象としている。

注5）夏みかんの果実については各試験区の果肉／果皮重量比を用いて算出している。

7. 乳汁への移行試験結果

乳牛2頭に対し、クロチアニジン14mg/頭/日を朝の搾乳直後に7日間連続して経口投与した。投与開始日、投与開始後1、3及び7日、最終投与後1、3及び5日に、搾乳機を用いて1日に2回搾乳し、同一日の試料を十分に攪拌し、分析試料としてクロチアニジン含量を測定したところ、いずれの試料においても、残留は検出されなかった。（検出限界0.01ppm）

8. 乳牛における残留試験

乳牛12頭に対して0、0.28、0.84、2.80ppmの飼料中濃度に相当する量のクロチアニジンを含有するカプセルを28日間にわたり摂食させ、乳、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓に含まれるクロチアニジン含量を測定した。

また、乳については、投与開始後、0、1、4、7、14、21、28日目に搾乳したものを測定した（定量限界：0.01ppm）。筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓については、投与開始後、28日目に採取したものを測定した（定量限界：0.02ppm）。結果については表1参照。

上記の結果に関連して、米国及びカナダでは、最大理論的飼料由来負荷（MTDB注）は0.28ppmと評価している。

表1. 乳及び各組織中の最大残留（ppm）

	0.28ppm 投与群	0.84ppm 投与群	2.80ppm 投与群
筋肉	-	<0.02	0.02
脂肪	-	<0.02	0.02
肝臓	-	<0.02	0.02
腎臓	-	<0.02	0.02
乳	<0.01	<0.01	0.01

注）最大理論的飼料由来負荷（Maximum Theoretical Dietary Burden：MTDB）：飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量。飼料中残留濃度として表示される。

（参考：Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs）

9. ADIの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号の規定に基づき、平成20年1月11日付厚生労働省発食安第0111003号により食品安全委員会あて意見を求めたクロチアニジンに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：9.7 mg/kg 体重/day

（動物種） ラット

（投与方法） 混餌投与

（試験の種類／期間）慢性毒性/発がん性併合試験／2年間

安全係数：100

ADI：0.097 mg/kg 体重/day

10. 諸外国における状況

JMPRにおける毒性評価はなされておらず、国際基準も設定されていない。

米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国及びカナダで、とうもろこし、なたね、乳等に基準値が設定されている。

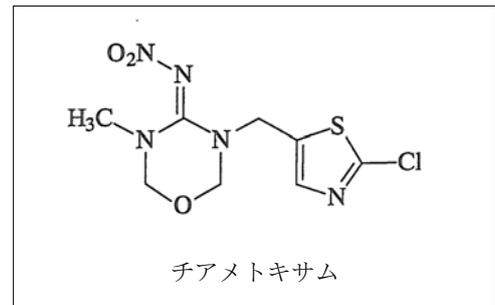
1.1. 基準値案

(1) 残留の規制対象

クロチアニジン

ただし、クロチアニジンは、同じく殺虫剤として農薬登録がなされているチアメトキサムの代謝物でもあり、チアメトキサムの使用によるクロチアニジンの残留が認められている。

米国等の基準にあつては、チアメトキサムの規制の対象として、チアメトキサムとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和としているが、各作物残留試験の結果において、一部の作物を除き、チアメトキサムの残留量に対するクロチアニジンの残留量が少ないこと、また、クロチアニジンの毒性（無毒性量9.7mg/kg体重/day）がチアメトキサムの毒性（1.84mg/kg体重/day）よりも低いことから、我が国ではチアメトキサムの基準はチアメトキサムのみを対象とすることとし、クロチアニジンの基準値の対象を、クロチアニジンとチアメトキサム由来のクロチアニジンの和とすることとした。



よって、基準値案は、クロチアニジン使用によるクロチアニジンの残留の他、チアメトキサム使用由来のクロチアニジンの残留も含め、設定した。

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

注) クロチアニジン使用によるクロチアニジンの作物残留試験成績と、チアメトキサム使用によるクロチアニジンの作物残留試験成績がある場合、双方共に同一作物に使用された場合の最大残留量を考慮して定めた。記載のある作物残留試験成績のうち、右側の欄に示した試験成績（チアメトキサム由来クロチアニジン作物残留試験成績）は、チアメトキサム使用によるクロチアニジンの残留値を示したものである。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限まで又は作物残留試験成績等のデータから推定される量のクロチアニジン使用によるクロチアニジン及びチアメトキサム使用によるクロチアニジンが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量（理論最大一日摂取量（TMDI））のADIに対

する比は、以下のとおりである。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下におこなった。詳細な暴露評価は別紙3参照。

	TMD I / AD I (%) ^{注)}
国民平均	17.8
幼小児 (1~6 歳)	33.9
妊婦	15.0
高齢者 (65 歳以上)	18.2

注) TMDI 試算は、基準値案×摂取量の総和として計算している。

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		
稲 ^{**} (玄米)	2	2.5%箱粒剤＋ 16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 50g/箱 4,000倍散布 150L/10a	1+3回	14,21,28日	圃場A:0.134(1+3回,21日)(#)
					13,20,27日	圃場B:0.104(1+3回,13日)(#)
稲 ^{**} (玄米)	2	2.5%箱粒剤＋ 1.0%1キログラム剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +1kg/10a	1+3回	14,21,28日	圃場A:<0.004(1+3回,14日)(#)
					13,20,27日	圃場B:0.026(1+3回,13日)(#)
稲 ^{**} (玄米)	2	2.5%箱粒剤＋ 0.15%粒剤DL	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,21,28日	圃場A:0.048(1+3回,21日)(#)
					13,20,27日	圃場B:0.023(1+3回,13日)(#)
稲 ^{**} (玄米)	2	2.5%箱粒剤＋ 0.5%粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,22日	圃場A:0.02(1+3回,14日)(#)
					14,21日	圃場B:<0.01(1+3回,14日)(#)
稲 ^{**} (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋0.5%粉剤DL	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.07(2+3回,14日)(#)
						圃場B:0.09(2+3回,14日)(#)
稲 ^{**} (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.14(2+3回,14日)(#)
						圃場B:0.12(2+3回,21日)(#)
稲 ^{**} (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋0.5%粒剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.01(2+3回,14日)(#)
						圃場B:0.02(2+3回,21日)(#)
稲 ^{**} (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+5,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.12(2+3回,21日)(#)
						圃場B:0.13(2+3回,14日)(#)
稲 ^{**} (玄米)	3	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+24倍 0.8L/10a RCH散布	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.04(2+3回,21日)(#)
					14,20,28日	圃場B:0.16(2+3回,14日)(#)
					14,21,28日	圃場C:0.16(2+4回,28日)(#)
稲 ^{**} (玄米)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+1,000倍 25L/10a	2+3回	7,14,21,28日	圃場A:0.10(2+3回,14日)(#)
						圃場B:0.07(2+3回,14日)(#)
稲 (玄米)	2	1.5%箱粒剤＋ 20%フロアブル剤	移植当日育苗施用50g/箱＋ 1250倍散布25L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.15(7日)(#)
						圃場B:0.21(7日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤＋ 16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 50g/箱 4,000倍散布 150L/10a	1+3回	14,21,28日	圃場A:0.11(1+3回,14日)(#)
					13,20,27日	圃場B:0.132(1+3回,13日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤＋ 1.0%1キログラム剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +1kg/10a	1+3回	14,21,28日	圃場A:0.118(1+3回,14日)(#)
					13,20,27日	圃場B:0.176(1+3回,13日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤＋ 0.15%粒剤DL	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,21,28日	圃場A:0.12(1+3回,14日)(#)
					13,20,27日	圃場B:0.142(1+3回,13日)(#)
稲 (稲わら)	2	2.5%箱粒剤＋ 0.5%粒剤	移植当日育苗施用 50g/箱 +4kg/10a	1+3回	14,22日	圃場A:0.72(1+3回,14日)(#)
					14,21日	圃場B:0.26(1+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋0.5%粉剤DL	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.28(2+3回,14日)(#)
						圃場B:2.75(2+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.18(2+3回,14日)(#)
						圃場B:0.78(2+3回,21日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋0.5%粒剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+4kg/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.17(2+3回,14日)(#)
						圃場B:2.16(2+3回,21日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+5,000倍 150L/10a	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.12(2+3回,21日)(#)
						圃場B:1.02(2+3回,14日)(#)
稲 (稲わら)	3	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋20.0%フロアブル	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱 +50g/箱+24倍 0.8L/10a RCH散布	2+3回	14,21,28日	圃場A:0.81(2+3回,21日)(#)
					14,20,28日	圃場B:2.57(2+3回,14日)(#)
					14,21,28日	圃場C:2.28(2+4回,14日)(#)
稲 (稲わら)	2	16.0%水溶剤＋2.5%箱粒 剤＋16.0%水溶剤	移植当日育苗施用 200倍散布 0.5L/箱、 +50g/箱+1,000倍 25L/10a	2+3回	7,14,21,28日	圃場A:1.07(2+3回,14日)(#)
						圃場B:0.54(2+3回,7日)(#)
稲 (稲わら)	2	1.5%箱粒剤＋ 20%フロアブル剤	移植当日育苗施用50g/箱＋1250倍散布 25L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.40(7日)(#)
						圃場B:3.51(7日)(#)
だいず ^{**} (乾燥子実)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2,000倍散布 150,200L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.01(1+3回,7日)(#)
						圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
だいず ^{**} (乾燥子実)	2	0.5%粒剤＋ 0.5%H粉剤DL	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +4kg/10a	1+4回	7,13,20日	圃場A:<0.01(1+4回,7日)(#)
				1+3回	7,14,21日	圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)(★)
だいず ^{**} (乾燥子実)	2	0.5%粒剤＋ 20.0%フロアブル	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2500倍散布 200, 250L/10a	1+3回	14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,14日)(#)
					7,14,21日	圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
だいず ^{**} (乾燥子実)	2	0.5%粒剤＋ 20.0%フロアブル	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +20～24倍散布 0.8L/10a	1+3回	7,13,20日	圃場A:<0.01(1+3回)(#)
					7,21,28日	圃場B:<0.01(1+3回)(#)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	播種前播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,000倍散布 150L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.002(1+3回,14日)
						圃場B:0.016(1+3回,14日)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤＋ 20.0%フロアブル	植付時播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,500倍散布 200, 250L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,7日)(#)
						圃場B:0.01(1+3回,7日)(#)
ばれいしょ (塊茎)	2	0.5%粒剤＋ 16.0%水溶剤	植付時播溝処理土壌混和 2g/株 1,000倍散布 25L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.03(1+3回,14日)
						圃場B:0.01
かんしょ (塊根)	2	0.5%粒剤	定植時作条処理土壌混和 9kg/10a	1回	116日	圃場A:<0.01(1回,116日)(#)
					104日	圃場B:<0.01(1回,104日)(#)

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数
てんさい (根部)	2	16.0%水溶剤	100倍 定植時苗床灌注 1L/冊	1回	160,167,174日 161,168,175日	圃場A:<0.01(1回,160日) 圃場B:<0.01(1回,161日)
てんさい (根部)	2	20.0%フロアブル+ 16.0%水溶剤	原液種子コーティング489mL/1ユニット +100倍定植前苗床灌注 1L/冊 +2000倍散布 200, 500L/10a	1+4回	14,21,30日 14,21,28日	圃場A:<0.01(1+4回,14日)(#) 圃場B:0.02(1+4回,14日)(#)
だいこん (根部)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2,000倍散布 150,200L/10a	1+2回	7,14日	圃場A:0.016(1+2回,14日) 圃場B:0.014
だいこん (葉部)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a +2,000倍散布 150,200L/10a	1+2回	7,14日	圃場A:0.84 圃場B:2.26
だいこん (つまみ菜)	1	0.5%粒剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a	1回	10日	圃場A:0.48
だいこん (間引き菜)	1	0.5%粒剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a	1回	22日	圃場A:0.14
キャベツ [※] (葉球)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 200,300L/10a	1+2回	3,7,14日 3,7,13日	圃場A:0.18 圃場B:0.16
レタス [※] (茎葉)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 200,300L/10a	1+2回	3,7,14日	圃場A:0.58(1+2回,3日)(#) 圃場B:1.33(1+2回,3日)(#)
リーフレタス [※] (茎葉)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 200~230,238L/10a	1+2回	3,7,14日	圃場A:7.96(1+2回,7日)(#) 圃場B:6.67(1+2回,7日)(#)
サラダ菜 [※] (茎葉)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 150~200,195L/10a	1+2回	3,7,14日	圃場A:9.99(1+2回,3日)(#) 圃場B:4.41(1+2回,3日)(#)
ねぎ [※] (茎葉)	2	0.5%粒剤	定植時播溝処理土壌混和 6kg/10a +4回株元散布	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.05(1+4回,7日)(#) 圃場B:0.14(1+4回,3日)(#)
ねぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	播種前播溝処理土壌混和 6kg/10a 2,000倍散布 200,150L/10a	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.09(1+4回,3日)(#) 圃場B:0.13(1+4回,3日)(#)
トマト [※] (果実)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 250L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.226(1+3回,7日) 圃場B:0.120
ミニトマト [※] (果実)	1	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 300~400L/10a	1+3回	1,7,14日	圃場A:0.66(1+3回,1日)(#)
ミニトマト [※] (果実)	1	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 300L/10a	1+3回	1,7,14日	圃場A:0.90
ピーマン (果実)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 200,150-200L/10a	1+2回	1,3,7日	圃場A:1.21(1+2回,1日)(#) 圃場B:1.02(1+2回,1日)(#)
なす [※] (果実)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 162.5-200,200L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.290(1+3回,3日)(#) 圃場B:0.379(1+3回,1日)(#)
きゅうり [※] (果実)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 300,200L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.695 圃場B:0.224
メロン [※] (果実)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 250,300L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.038(1+3回,3日) 圃場B:0.012(1+3回,3日)
すいか [※] (果実)	2	0.5%粒剤+ 16.0%水溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株 +2,000倍散布 250,300L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.022 圃場B:0.011(1+3回,7日)
温州みかん [※] (果肉)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.246 圃場B:0.086(3回,14日)
温州みかん [※] (果肉)	2	16.0%水溶剤	20倍樹幹散布 22.2, 13.3L/10a 2,000倍散布 666,800L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.02(1+3回,7日)(#) 圃場B:0.08(1+3回,21日)(#)
温州みかん [※] (果皮)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:3.24 圃場B:1.09(3回,14日)
温州みかん [※] (果皮)	2	16.0%水溶剤	20倍樹幹散布 22.2, 13.3L/10a 2,000倍散布 666,800L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.74(1+3回,7日)(#) 圃場B:2.96(1+3回,14日)(#)
夏みかん [※] (果肉)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.023(3回,21日) 圃場B:0.292(3回,14日)
夏みかん [※] (果皮)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.362(3回,21日) 圃場B:2.18(3回,14日)
夏みかん ^{※*} (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.118(3回,21日) 圃場B:0.726(3回,14日)
すだち (果実)	1	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.297
かぼす (果実)	1	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.204

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数
りんご (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 500L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.155 圃場B:0.042
りんご (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 350,400L/10a	3回	1,3,7日	圃場A:0.15 圃場B:0.06
なし (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 300,500L/10a	3回	1,6,13日 1,7,14日	圃場A:0.39 圃場B:0.18
もも [*] (果肉)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.124 圃場B:0.084(3回,14日)
もも (果皮)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:1.00 圃場B:2.04
うめ (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 700,500-800L/10a	3回	7,14,21,28日	圃場A:0.97 圃場B:1.12(#)
おうとう (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 625,500L/10a	2回	1,3,7,14日	圃場A:1.08 圃場B:1.96
ぶどう [*] (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 300L/10a	3回	14,28,42,56日	圃場A:0.506 圃場B:1.43(3回,28日)
ぶどう [*] (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 300L/10a,400L/10a	3回	1,14,28,56日	圃場A:0.66 圃場B:1.00
かき (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400,500L/10a	3回	7,13,21日 7,14,21日	圃場A:0.11 圃場B:0.14
茶 [*] (荒茶)	3	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	1回	7,14,21日	圃場A:37.6 圃場B:2.42(1回,14日) 圃場C:9.92
茶 (浸出液)	3	16.0%水溶剤	2,000倍散布 400L/10a	1回	7,14,21日	圃場A:36.4 圃場B:2.27 圃場C:8.70
いちご [*] (果実)	2	0.5%粒剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株	1回	97,104日 62,69日	圃場A:0.22(1回,97日)(#) 圃場B:0.06(1回,62日)(#)
あんず [*] (果実)	2	16.0%水溶剤	2,000倍散布 556,500L/10a	3回	3,7,14日 3,7,14日	圃場A:0.72(3回,3日)(#) 圃場B:1.06(3回,3日)(#)
れんこん (根)	2	0.5%粒剤	定植時植溝処理土壌混和 12kg/10a、全面散布	1+3回	7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
れんこん (根茎)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	植付時植溝処理 12kg/10a +2,000倍散布 300,200L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:<0.01(1+3回,7日)(#) 圃場B:<0.01(1+3回,7日)(#)
いんげんまめ [*] (乾燥子実)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a+ 2000倍散布 150,244L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.01(1+3回,21日)(#) 圃場B:0.02(1+3回,7日)(#)
あずき [*] (乾燥子実)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a+ 2000倍散布 300,150L/10a	1+3回	7,14,21日	圃場A:0.09(1+3回,7日)(#) 圃場B:0.03(1+3回,14日)(#)
ブロッコリー [*] (花蕾)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 200L/10a	1+3回	3,7,14日	圃場A:0.33(1+3回,3日) 圃場B:0.07(1+3回,3日)
アスパラガス [*] (若茎)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 300L/10a	3回	1,3,7日	圃場A:0.10 圃場B:0.24
えだまめ [*] (さや)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植溝穴処理土壌混和 6kg/10a+2000倍散布 200,300L/10a	1+3回	3,7,14日	圃場A:0.26(1+3回,3日)(#) 圃場B:0.69(1+3回,3日)(#)
にら [*] (茎葉)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:6.18 圃場B:1.42
ネクタリン (果実)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 400,500L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.64 圃場B:0.58
すもも (果実)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 500,400L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.10(3回,7日)(#) 圃場B:0.04(#)
にがうり (果実)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 250,180L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.28(1+3回,1日)(#) 圃場B:0.16(1+3回,1日)(#)
チンゲンサイ (茎葉)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	定植時植穴処理土壌混和 2g/株+2000倍散布 200,300L/10a	1+3回	14日	圃場A:0.16(1+3回,14日)(#) 圃場B:0.85(1+3回,14日)(#)
みずな (茎葉)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a+ 2000倍散布 40-150,227.8L/10a	1+3回	7,14日	圃場A:1.07(1+3回,7日)(#) 圃場B:2.46(1+3回,7日)(#)
おくら (果実)	2	0.5%粒剤+16.0%水 溶剤	播種時播溝処理土壌混和 6kg/10a+ 2000倍散布 200,100-150L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.36(1+3回,1日)(#) 圃場B:0.30(1+3回,1日)(#)
マンゴー (果実)	1	16.0%水溶剤	2000倍散布 320L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.06
マンゴー (果実)	1	16.0%水溶剤	2000倍散布 320L/10a	3回	7,14,21日	圃場A:0.06

クロチアニジン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
いちじく (果実)	1	16.0%水溶剤	2000倍散布 400L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.27
いちじく (果実)	1	16.0%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.07
あさつき (茎葉)	2	0.5%粒剤	定植時植溝処理土壌混和 6kg/10a +株元散布	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.59(1+4回,7日)(#) 圃場B:0.96(1+4回,7日)(#)
わけぎ (茎葉)	2	0.5%粒剤	定植時植溝処理土壌混和 6kg/10a +株元散布	1+4回	3,7,14日	圃場A:0.13(1+4回,3日)(#) 圃場B:0.04(1+4回,14日)(#)
食用へちま (果実)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 200L/10a, 360L/10a	3回	1,3,7日	圃場A:0.21 (#) 圃場B:0.16 (#)
トウガン (果実)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 267L/10a, 255L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.14 圃場B:0.20
パパイヤ (果実)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 200L/10a	3回	3,7,14日	圃場A:0.21 圃場B:0.12
さとうきび (茎)	2	0.5%粒剤	定植時植溝処理土壌混和 6kg/10a	1回	259日 302日	圃場A:<0.005 圃場B:<0.005
かぼちゃ (果実)	2	0.5%粒剤+16.0% 水溶剤	定植時植穴土壌混和 2g/株 1回 +2000倍散布 200L/10a	1+3回	1,3,7日	圃場A:0.06(1+3回,1日)(#) 圃場B:0.17(1+3回,1日)(#)
みょうが (花穂)	2	16.0%水溶剤	2000倍散布 350L/10a	3回	1,7,14日	圃場A:<0.05 圃場B:<0.05

最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

※印で示した作物については、申請の範囲内で最高の値を示した括弧内に示す条件において得られた値を採用した。

★だいず（乾燥子実）の圃場Bにおける試験については、定められた適用回数を超えて試験がなされているが、処理直後の降雨による再処理の結果によるものであることから、暴露評価の対象としている。

*各試験区の果肉/果皮重量比（圃場A:72%/28%、圃場B:70%/30%）を用いて算出した。

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「クロチアニジン」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

農薬名

クロチアニジン

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	クロチアニジン				チアトキサム				
			登録 有無	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	作物残留試験成績 ppm	登録 有無	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	チアトキサム由来 クロチアニジン 作物残留試験成績 ppm	
米	0.7	0.7	○			0.134(#), 0.104(#), <0.004(#), 0.026(#), 0.048(#), 0.023(#), 0.02(#), <0.01(#), 0.07(#), 0.09(#), 0.14(#), 0.12(#), 0.01(#), 0.02(#), 0.12(#), 0.13(#), 0.04(#), 0.16(#), 0.10(#), 0.07(#)	○・申		0.02	カナダ	<0.005, <0.005/0.029(#), 0.011(#)/ 0.078(#), 0.026(#)/0.054(#&), 0.046(#&)/<0.005, 0.008/ 0.064(#), 0.076(#)
小麦	0.02	0.02							0.02	カナダ	【ND(n=16)(カナダ小麦)】
大麦	0.1	0.02							0.30	アメリカ	【<0.01-0.02(n=9)(米国大麦)】
ライ麦	0.02	0.02							0.02	カナダ	
とうもろこし	0.02	0.02			0.01	アメリカ		○	0.02	アメリカ	<0.005(#), <0.005(#)
そば	0.02	0.02							0.02	カナダ	
その他の穀類	0.02	0.02					<0.01(#), <0.01(#)		0.02	アメリカ	【<0.01(n=9)(米国ソルガム)】
大豆	0.1	0.1	○				0.01(#), <0.01(#), <0.01(#), <0.01(#), <0.01(#), <0.01(#)	○	0.02	アメリカ	<0.005(#), <0.005(#)/ <0.005(#), <0.005(#)
小豆類	0.3	0.3	○				0.01(#), 0.02(#), 0.09(#), 0.03(#)	○	0.02	アメリカ	<0.005, <0.005/0.008(#), 0.018(#)(小豆) 0.049, <0.005/0.01(#), <0.01(#)(いんげん) 【<0.01(n=6)(米国ライマ豆)】
えんどう	0.3	0.3	○				小豆類を参照		0.02	アメリカ	【米国ライマ豆参照】
そら豆	0.3	0.3	○				小豆類を参照		0.02	アメリカ	【米国ライマ豆参照】
らっかせい	0.02	0.02							0.02	カナダ	
その他の豆類	0.3	0.3	○				小豆類を参照		0.02	アメリカ	【米国ライマ豆参照】
ばれいしょ	0.25	0.25	○				0.002, 0.016, <0.01(#), 0.01(#), 0.03, 0.01	○	0.25	アメリカ	<0.005(#), 0.020(#)/ 0.02, <0.01
さといも類	0.05	0.05						○	0.02	アメリカ	<0.01(#), <0.01(#)/<0.01(#), <0.01(#)/<0.01(#), <0.01(#)
かんしょ	0.1	0.1	○				<0.01, <0.01	○	0.02	アメリカ	<0.005, <0.005/<0.005(#), <0.005(#)
やまいも(長いもをいう)	0.02	0.02							0.02	アメリカ	
こんにやくいも	0.05	0.02						申	0.02	カナダ	<0.01, <0.01
その他のいも類	0.02	0.02							0.02	アメリカ	
てんさい	0.1	0.1	○				<0.01, <0.01, <0.01(#), <0.01(#)	○	0.02	カナダ	<0.005, <0.005
さとうきび	0.02	0.02					<0.005, <0.005		0.02	カナダ	
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.1	0.1	○				0.016, 0.014	申	0.02	アメリカ	<0.005(#), <0.005(#)/<0.005(#), <0.005(#)/<0.005(#), <0.005(#)
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	5	5	○				0.84, 2.26	申	0.02	カナダ	<0.005(#), 0.006(#)/0.254(#), 0.137(#)/0.136(#), 0.122(#)

農薬名 クロチアニジン

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	クロチアニジン				チアトキサム			
			登録 有無	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	作物残留試験成績 ppm	登録 有無	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	チアトキサム由来 クロチアニジン 作物残留試験成績 ppm
かぶ類の根	0.02	0.02						0.02	アメリカ	【米国にんじん参照】
かぶ類の葉	0.02	0.02						0.02	カナダ	
西洋わさび	0.02	0.02						0.02	アメリカ	【米国にんじん参照】
クレソン	0.2	0.02						4.0	アメリカ	【米国リーフレタス参照】
はくさい	0.3	0.1					○	4.5	アメリカ	<0.005, <0.005/0.007, 0.020 【米国キャベツ参照】
キャベツ	0.7	0.7	○			0.18(\$), 0.16	○	4.5	アメリカ	0.028(#), <0.005(#) 【0.01-0.06(n=6)(米国キャベツ)】
芽キャベツ	0.3	0.02						4.5	アメリカ	【米国キャベツ参照】
ケール	1	0.02						3.0	アメリカ	【米国からしな参照】
こまつな	1	0.5					○・申	3.0	アメリカ	0.10(#), 0.360/0.14(#), 0.40(\$)
きょうな	5	5	○			1.07(#), 2.46(#)	○・申	3.0	アメリカ	0.08(#), 0.18(#)
チンゲンサイ	5	5	○			0.16(#), 0.85(#)	○・申	3.0	アメリカ	0.09(#), 0.32(#)
カリフラワー	0.3	0.02					○	4.5	アメリカ	<0.005(#), <0.005(#) 【米国キャベツ参照】
ブロッコリー	1	1	○			0.33(#\$), 0.07(#)	○	4.5	アメリカ	<0.005, <0.005/0.086, 0.019 【米国キャベツ参照】
その他のあぶらな科野菜	5	5					○・申	4.5	アメリカ	(チンゲンサイ参照)
ごぼう	0.02	0.02						0.02	アメリカ	【米国にんじん参照】
サルシフィー	0.02	0.02						0.02	アメリカ	【米国にんじん参照】
アーティチョーク	2	2						0.45	アメリカ	【0.20-0.22(n=3)(米国アーティチョーク)】
チコリ	2	2						4.0	アメリカ	【米国リーフレタス参照】
エンダイブ	2	2						4.0	アメリカ	【米国リーフレタス参照】
しゅんぎく	0.2	0.02						4.0	アメリカ	【米国リーフレタス参照】
レタス	20	20	○			0.58(#), 1.33(#), 7.96(#), 6.67(#), 9.99(#\$), 4.41(#)	○・申	4.0	アメリカ	0.015, 0.024(レタス) <0.05(#), <0.05(#)/0.10(#), 0.09(#)(サラダ菜) <0.05(#), <0.05(#), 0.20(#), 0.07(#)(リーフレタス) 【<0.01-0.01(n=5)(米国レタス) 【0.01-0.04(n=6)(米国リーフレタス)】
その他のきく科野菜	2	2						4.0	アメリカ	【米国リーフレタス参照】
たまねぎ	0.02	0.02						0.02	カナダ	
ねぎ	0.7	0.7	○			0.05(#), 0.14(#\$), 0.09(#), 0.13(#)	○	0.02	カナダ	0.022, 0.022/ 0.059(&), 0.076(&)
にんにく	0.02	0.02						0.02	カナダ	
にら	15	15	○			6.18(\$), 1.42	○	0.02	カナダ	0.19(#), 0.42(#)/0.67(#)
アスパラガス	0.7	0.7	○			0.10, 0.24(\$)	○	0.02	カナダ	<0.005, <0.005

農薬名 クロチアニジン

農産物名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	クロチアニジン				チアメトキサム			
			登録 有無	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	作物残留試験成績 ppm	登録 有無	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	チアメトキサム由来 クロチアニジン 作物残留試験成績 ppm
わけぎ	2	2	○			0.13(#), 0.04(#)	○・申	0.02	カナダ	<0.05(#), 0.06(#)/ 0.08(#&), 0.21(#&)
その他のゆり科野菜	2	2						0.02	カナダ	
にんじん	0.02	0.02						0.02	アメリカ	【<0.01(n=15)(米国にんじん)】
パースニップ	0.02	0.02						0.02	アメリカ	【米国にんじん参照】
パセリ	2	2						4.0	アメリカ	【米国リーフレタス参照】
セロリ	5	5					○	4.0	アメリカ	<0.1, <0.1 【<0.01-0.02(n=6)(米国セロリ)】
みつば	0.02	0.02						0.02	カナダ	
その他のせり科野菜	2	2						4.0	アメリカ	【米国リーフレタス参照】
トマト	3	3	○			0.226, 0.120 (トマト) 0.66(#), 0.90(\$)(ミニトマト)	○・申	0.25	アメリカ	<0.005/0.018/0.010/0.024/ 0.038 (トマト) 0.02, <0.02/0.10, 0.08/0.16(#), 0.19(#\$)(ミニトマト)
ピーマン	3	3	○			1.21(#), 1.02(#)	○	0.25	アメリカ	0.008, <0.005/0.016, 0.016/ 0.044, 0.034/ 0.032(&), 0.056(&)
なす	1	1	○			0.290(#), 0.379(#)	○	0.25	アメリカ	<0.005(#), <0.005(#)/<0.005(#), <0.005(#)/<0.005(#), <0.005(#)/<0.005(#), <0.005(#)
その他のなす科野菜	1	1					○・申	0.25	アメリカ	0.08(#), 0.05(#)(ししとう) 0.16(#), 0.03(#)(とうがらし)
きゅうり	2	2	○			0.695(\$), 0.224	○	0.2	アメリカ	<0.005, <0.005/ 0.005, 0.006/ 0.010(&), 0.008(&)/ 0.008(&), 0.008(&) 【<0.01(n=8)(米国きゅうり)】
かぼちや	0.4	0.4	○			0.06(#), 0.17(#)		0.2	アメリカ	【<0.01(n=5)(米国サマスカッシュ)】
しろり	0.05	0.02						0.2	アメリカ	【米国サマスカッシュ参照】
すいか	0.2	0.2	○			0.022(\$), 0.011	○	0.2	アメリカ	<0.005, 0.007
メロン類果実	0.3	0.3	○			0.038(\$), 0.012	○	0.2	アメリカ	<0.005, <0.005/ 0.006, <0.005, 0.008, 0.014(\$)/<0.005, <0.005
まくわうり	0.05	0.02						0.2	アメリカ	【米国カンタロープ参照】
その他のうり科野菜	2	2	○			0.28(#), 0.16(#)(にがうり) 0.21(#), 0.16(#)(食用へちま) 0.14, 0.20(とうがん)	○	0.2	アメリカ	<0.01(#), 0.01(#)(にがうり) <0.02, <0.02(食用へちま) 【<0.01(n=6)(米国カンタロープ)】

農薬名 クロチアニジン

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	クロチアニジン				チアメトキサム			
			登録 有無	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	作物残留試験成績 ppm	登録 有無	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	チアメトキサム由来 クロチアニジン 作物残留試験成績 ppm
ほうれんそう	3	0.02					申	4.0	アメリカ	0.68, 0.75/0.58, 1.20(\$) 【0.20-0.75(n=6) (米国ほうれんそう)】
たけのこ	2	2						0.02	カナダ	
オクラ	1	1	○			0.36(#), 0.30(#)	○	0.02	カナダ	<0.01, 0.01
しょうが	0.02	0.02						0.02	アメリカ	
未成熟えんどう	0.02	0.02						0.02	アメリカ	【<0.01(n=10)(米国さやえんどう)】
未成熟いんげん	0.5	0.5					○	0.02	アメリカ	0.074, 0.118(\$) 【<0.01(n=7)(米国さやいんげん)】
えだまめ	2	2	○			0.69(#), 0.26(#)	○	0.02	アメリカ	0.020(#), 0.020(#)/ 0.028(#\$), 0.019(#)
マッシュルーム	0.02	0.02						0.02	カナダ	
しいたけ	0.02	0.02						0.02	カナダ	
その他のきのこ類	0.02	0.02						0.02	カナダ	
その他の野菜	2	2	○			<0.01(#), <0.01(#), <0.01(#), <0.01(#)(れんこん)	○	4.0	アメリカ	<0.005, <0.005/<0.005, <0.005(れんこん) <0.2, <0.2(うこぎ) <0.02, 0.04(エンサイ) 0.43, 0.34(モロヘイヤ)
みかん	1	1	○			0.246(\$), 0.086, 0.02(#), 0.08(#)	○	1	オーストラリア	0.013(&), <0.005(&)/ 0.007, <0.005/ 0.014(&)/0.022(#&)/ 0.008/0.011(#)
なつみかんの果実全体	2	2	○			0.118, 0.726(\$)	○・申	1	オーストラリア	0.04(&), 0.04(&)/0.02, 0.02/0.03(#&), 0.03(&)
レモン	2	2	○				○・申	1	オーストラリア	(なつみかん参照)
オレンジ(ネーブルオレンジを含む)	2	2	○				○・申	1	オーストラリア	(なつみかん参照)
グレープフルーツ	2	2	○				○・申	1	オーストラリア	(なつみかん参照)
ライム	2	2	○				○・申	1	オーストラリア	(なつみかん参照)
その他のかんきつ類果実	2	2	○			0.297(すだち), 0.204(かぼす)	○・申	1	オーストラリア	0.38/0.06(すだち) 0.010/0.02(かぼす) 0.063(ゆず) (なつみかん参照)

農薬名

クロチアニジン

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	クロチアニジン			作物残留試験成績 ppm	登録 有無	チアトキサム		
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	チアトキサム由来 クロチアニジン 作物残留試験成績 ppm			国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
りんご	1	1	○		1.0	アメリカ		○	0.2	アメリカ	0.006, 0.010/0.008, <0.005 【<0.01-0.01(n=13)(米国りんご)】
日本なし	1	1	○		1.0	アメリカ		○	0.2	アメリカ	0.016, 0.011/0.016(#)/ <0.02, 0.04
西洋なし	1	1	○		1.0	アメリカ		○	0.2	アメリカ	(日本なし参照) 【0.01-0.04(n=6)(米国西洋なし)】
マルメロ	1	1			1.0	アメリカ			0.2	アメリカ	【米国りんご参照】
びわ	1	1			1.0	アメリカ			0.2	アメリカ	【米国りんご参照】
もも	0.7	0.7	○				0.124(\$), 0.084	○	0.5	アメリカ	0.046, 0.080/<0.02(#), <0.02(#)/0.08(&), 0.12(&)
ネクタリン	2	2	○				0.64, 0.58		0.5	アメリカ	【米国チェリー参照】
あんず(アプリコットを含む)	3	3	○				0.72(#), 1.06(#\$)	○	0.5	アメリカ	(うめ参照)
すもも(プルーンを含む)	0.3	0.3	○				0.10(#), 0.04(#)	○	0.5	アメリカ	<0.02, <0.02 【米国チェリー参照】
うめ	3	3	○				0.97, 1.12(#)	○	0.02	カナダ	0.117, 0.242
おうとう(チェリーを含む)	5	5	○				1.08, 1.96	○	0.5	アメリカ	0.12, 0.139 【<0.01-0.03(n=8)(米国チェリー)】
いちご	0.7	0.7	○				0.22(#\$), 0.06(#)	○	0.3	アメリカ	<0.005(#), <0.005(#)/ 0.010(#&), 0.010(#&) 【<0.01(n=8)(米国いちご)】
ラズベリー	0.2	0.02							0.35	アメリカ	【<0.01-0.04(n=4)(米国ラズベリー)】
ブラックベリー	0.2	0.02							0.35	アメリカ	【米国ラズベリー参照】
ブルーベリー	0.2	0.1							0.20	アメリカ	【<0.01-0.05(n=9)(米国ブルーベ リー)】
クランベリー	0.02	0.02							0.02	アメリカ	【<0.010(n=6)(米国クランベリー)】
ハuckleベリー	0.2	0.1							0.20	アメリカ	【米国ブルーベリー参照】
その他のベリー類果実	0.2	0.1							0.35	アメリカ	【米国ラズベリー参照】
ぶどう	5	5	○				0.506, 1.43(\$), 0.66, 1.00	○	0.20	アメリカ	0.122, 0.053
かき	0.5	0.5	○				0.11, 0.14	○	0.02	カナダ	0.012, 0.019
バナナ	1	1						○	0.02	カナダ	<0.02, 0.02
キウイ	0.02	0.02							1	ニュージーランド	
パパイヤ	1	1	○				0.21, 0.12		0.02	カナダ	
アボカド	0.02	0.02							0.02	カナダ	
パイナップル	0.02	0.02							0.02	カナダ	
グアバ	1	1						○	0.02	カナダ	<0.02, <0.02
マンゴー	1	1	○				0.06, 0.06	○	0.02	カナダ	0.03, 0.04
パッションフルーツ	1	1							0.02	カナダ	
なつめやし	0.02	0.02							0.02	カナダ	
その他の果実	4	4	○				0.27, 0.07(いちじく)	○	0.25	アメリカ	0.12, <0.1(いちじく) <0.04, 0.09(アセロラ)

農薬名 クロチアニジン

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	クロチアニジン				チアメキシサム			
			登録 有無	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	作物残留試験成績 ppm	登録 有無	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	チアメキシサム由来 クロチアニジン 作物残留試験成績 ppm
ひまわりの種子	0.02	0.02						0.02	アメリカ	
ごまの種子	0.02	0.02						0.02	カナダ	
べにばなの種子	0.02	0.02						0.02	アメリカ	
綿実	0.1	0.02						0.10	アメリカ	【<0.01-<0.02(n=22)(米国綿実)】
なたね	0.01	0.01			0.01	アメリカ		0.02	アメリカ	【<0.01-<0.025(n=19) (米国なたね)】
その他のオイルシード	0.02	0.02						0.02	アメリカ	
ぎんなん	0.02	0.02						0.02	カナダ	
くり	0.02	0.02						0.02	カナダ	
ペカン	0.02	0.02						0.02	アメリカ	【<0.01(n=5)(米国ペカン)】
アーモンド	0.02	0.02						0.02	カナダ	
くるみ	0.02	0.02						0.02	カナダ	
その他のナッツ類	0.02	0.02						0.02	カナダ	
茶	50	50	○			37.6(\$), 2.42, 9.92, 36.4, 2.27, 8.70	○	0.02	カナダ	0.25, 0.07/0.17, 0.09(荒茶)
コーヒー豆	0.05	0.04						0.05	アメリカ	【<0.02(n=4)(米国コーヒー)】
カカオ豆	0.02	0.02						0.02	カナダ	
ホップ	0.1	0.02						0.1	アメリカ	【<0.025-0.0272(n=3)(米国ホップ)】
みかんの果皮	10	10	○			3.24(\$), 1.09, 0.74(#), 2.96(#)				0.28, 0.12/0.24, 0.12/0.51/0.47(#)/0.30/0.36(#)
その他のスパイス(みかんの果皮を除く)	4	4					○	0.02	カナダ	
スペアミント	0.3	0.3								
ペパーミント	0.3	0.3								
その他のハーブ (スペアミント及びペパーミントを除く)	5	5	○			0.59(#), 0.96(#)(あさつき) <0.05, <0.05(みょうが)	○・申	1.5	アメリカ	0.05(#), <0.05(#)/0.18(#), 0.05(#)(あさつき) <0.02, <0.02(みょうが) 0.12, 0.06(セージ) 【0.06-0.31(n=5)米国からしな)】 (チンゲンサイ参照)
牛の筋肉	0.02	0.02						0.02	アメリカ	
豚の筋肉	0.02	0.02						0.02	アメリカ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉	0.02	0.02						0.02	アメリカ	
牛の脂肪	0.02	0.02			0.02	オーストラリア		0.02	アメリカ	
豚の脂肪	0.02	0.02			0.02	オーストラリア		0.02	アメリカ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.02	0.02			0.02	オーストラリア		0.02	アメリカ	
牛の肝臓	0.02	0.02			0.02	オーストラリア		0.02	アメリカ	
豚の肝臓	0.02	0.02			0.02	オーストラリア		0.02	アメリカ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.02	0.02			0.02	オーストラリア		0.02	アメリカ	

農薬名 クロチアニジン

農産物名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	クロチアニジン				チアメトキサム				
			登録 有無	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	作物残留試験成績 ppm	登録 有無	国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	チアメトキサム由来 クロチアニジン 作物残留試験成績 ppm	
牛の腎臓	0.02	0.02			0.02	オーストラリア			0.02	アメリカ	
豚の腎臓	0.02	0.02			0.02	オーストラリア			0.02	アメリカ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.02	0.02			0.02	オーストラリア			0.02	アメリカ	
牛の食用部分	0.02	0.02			0.02	オーストラリア			0.02	アメリカ	
豚の食用部分	0.02	0.02			0.02	オーストラリア			0.02	アメリカ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.02	0.02			0.02	オーストラリア			0.02	アメリカ	
乳	0.01	0.01			0.01	アメリカ			0.02	アメリカ	
鶏の筋肉	0.02	0.02							0.02	カナダ*	
その他の家禽の筋肉	0.02	0.02							0.02	カナダ*	
鶏の脂肪	0.02	0.02							0.02	カナダ*	
その他の家禽の脂肪	0.02	0.02							0.02	カナダ*	
鶏の肝臓	0.02	0.02							0.02	カナダ*	
その他の家禽の肝臓	0.02	0.02							0.02	カナダ*	
鶏の腎臓	0.02	0.02							0.02	カナダ*	
その他の家禽の腎臓	0.02	0.02							0.02	カナダ*	
鶏の食用部分	0.02	0.02							0.02	カナダ*	
その他の家禽の食用部分	0.02	0.02							0.02	カナダ*	
鶏の卵	0.02	0.02							0.02	カナダ*	
その他の家禽の卵	0.02	0.02							0.02	カナダ*	

【 】で示した結果等については、海外で実施された作物残留試験成績を示した。

(#)これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

(\$)これらの作物残留試験は、試験条件のばらつきを考慮し、この印をつけた試験結果を基準値策定の根拠とした。

(&)これらの作物残留試験は、試験方法の違いを考慮し、この印をつけた試験結果を基準値策定の根拠とした。

(別紙3)

クロチアニジン推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	妊婦 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI
米(玄米)	0.7	129.6	132.2	97.8	68.4
小麦	0.02	2.3	1.7	2.5	1.6
大麦	0.1	0.6	0.4	0.0	0.0
ライ麦	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
とうもろこし	0.02	0.1	0.0	0.1	0.1
そば	0.02	0.1	0.1	0.0	0.0
その他の穀類	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
大豆	0.1	5.6	5.9	4.6	3.4
小豆類	0.3	0.4	0.8	0.0	0.2
えんどう	0.3	0.1	0.1	0.1	0.0
そら豆	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0
らつかせい	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の豆類	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
ばれいしょ	0.25	9.2	6.8	10.0	5.3
さといも類(やっがしらを含む)	0.05	0.6	0.9	0.4	0.3
かんしょ	0.1	1.6	1.7	1.4	1.8
やまいも(長いも)	0.02	0.1	0.1	0.0	0.0
こんにやくいも	0.05	0.6	0.7	0.6	0.3
その他のいも類	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
てんさい	0.1	0.5	0.4	0.3	0.4
さとうきび	0.02	0.3	0.2	0.2	0.2
だいこん類(ラディッシュを含む)の根	0.1	4.5	5.9	2.9	1.9
だいこん類(ラディッシュを含む)の葉	5	11.0	17.0	4.5	2.5
かぶ類の根	0.02	0.1	0.1	0.0	0.0
かぶ類の葉	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
西洋わさび	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
クレソン	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
はくさい	0.3	8.8	9.5	6.6	3.1
キャベツ	0.7	16.0	13.9	16.0	6.9
芽キャベツ	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
ケール	1	0.1	0.1	0.1	0.1
こまつな	1	4.3	5.9	1.6	2.0
きょうな	5	1.5	1.5	0.5	0.5
チンゲンサイ	5	7.0	9.5	5.0	1.5
カリフラワー	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0
ブロッコリー	1	4.5	4.1	4.7	2.8
その他のあぶらな科野菜	5	10.5	15.5	1.0	1.5
ごぼう	0.02	0.1	0.1	0.0	0.0
サルシフィー	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
アーティチョーク	2	0.2	0.2	0.2	0.2
チコリ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
エンダイブ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
しゅんぎく	0.2	0.5	0.7	0.4	0.1
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む)	20	122.0	84.0	128.0	50.0
その他のきく科野菜	2	0.8	1.4	1.0	0.2
たまねぎ	0.02	0.6	0.5	0.7	0.4
ねぎ(リーキを含む)	0.7	7.9	9.5	5.7	3.2
にんにく	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
にら	15	24.0	24.0	10.5	10.5
アスパラガス	0.7	0.6	0.5	0.3	0.2
わけぎ	2	0.4	0.6	0.2	0.2
その他のゆり科野菜	2	1.8	3.6	0.2	0.2
にんじん	0.02	0.5	0.4	0.5	0.3
パースニップ	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
パセリ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
セロリ	5	2.0	2.0	1.5	0.5
みつば	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のせり科野菜	2	0.2	0.6	0.2	0.2
トマト	3	72.9	56.7	73.5	50.7

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	妊婦 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI
ピーマン	3	13.2	11.1	5.7	6.0
なす	1	4.0	5.7	3.3	0.9
その他のなす科野菜	1	0.2	0.3	0.1	0.1
きゅうり (ガーキンを含む)	2	32.6	33.2	20.2	16.4
かぼちや (スカッシュを含む)	0.4	3.8	4.6	2.8	2.3
しろうり	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
すいか	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
メロン類果実	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1
まくわうり	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のうり科野菜	2	1.0	1.4	4.6	0.2
ほうれんそう	3	56.1	65.1	52.2	30.3
たけのこ	2	4.0	3.4	5.2	1.4
オクラ	1	0.3	0.3	0.2	0.2
しょうが	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
未成熟えんどう	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
未成熟いんげん	0.5	1.0	0.9	0.9	0.6
えだまめ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
マッシュルーム	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
しいたけ	0.02	0.1	0.1	0.1	0.0
その他のきのこ類	0.02	0.2	0.2	0.2	0.1
その他の野菜	2	25.2	24.4	19.2	19.4
みかん	1	41.6	42.6	45.8	35.4
なつみかんの果実全体	2	0.2	0.2	0.2	0.2
レモン	2	0.6	0.6	0.6	0.4
オレンジ (ネーブルオレンジを含む)	2	0.8	0.4	1.6	1.2
グレープフルーツ	2	2.4	1.6	4.2	0.8
ライム	2	0.2	0.2	0.2	0.2
その他のかんきつ類果実	2	0.8	1.2	0.2	0.2
りんご	1	35.3	35.6	30.0	36.2
日本なし	1	5.1	5.1	5.3	4.4
西洋なし	1	0.1	0.1	0.1	0.1
マルメロ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
びわ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
もも	0.7	0.4	0.1	2.8	0.5
ネクタリン	2	0.2	0.2	0.2	0.2
アンズ (アブリコットを含む)	3	0.3	0.3	0.3	0.3
スモモ (ブルーンを含む)	0.3	0.1	0.1	0.4	0.0
うめ	3	3.3	4.8	4.2	0.9
おうとう (チェリーを含む)	5	0.5	0.5	0.5	0.5
いちご	0.7	0.2	0.1	0.1	0.3
ラズベリー	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ブラックベリー	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ブルーベリー	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
クランベリー	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ハックルベリー	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のベリー類果実	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ぶどう	5	29.0	19.0	8.0	22.0
かき	0.5	15.7	24.8	10.8	4.0
バナナ	1	12.6	17.7	8.7	11.3
キウイ	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
パパイヤ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
アボカド	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
パイナップル	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
グアバ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
マンゴー	1	0.1	0.1	0.1	0.1
パッションフルーツ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
なつめやし	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の果実	4	15.6	6.8	5.6	23.6
ひまわりの種子	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ごまの種子	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
べにばなの種子	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0

食品群	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI	妊婦 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI
綿実	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
なたね	0.01	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のオイルシード	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ぎんなん	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
くり	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ペカン	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
クルミ	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のナッツ類	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
茶	50	150.0	215.0	175.0	70.0
コーヒー豆	0.05	0.1	0.1	0.1	0.0
カカオ豆	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ホップ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
みかんの果皮	10	1.0	1.0	1.0	1.0
その他のスパイス (みかんの果皮を除く)	4	0.4	0.4	0.4	0.4
スペアミント	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
ペパーミント	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のハーブ (スペアミント及びペパーミントを除く)	5	0.5	0.5	0.5	0.5
陸棲哺乳類の肉類	0.02	1.2	1.2	1.2	0.7
陸棲哺乳類の乳類	0.01	1.4	1.5	1.8	2.0
家禽の肉類	0.02	0.4	0.4	0.3	0.4
家禽の卵類	0.02	0.8	0.8	0.8	0.6
計		918.8	955.3	811.2	519.8
ADI比 (%)		17.8	18.2	15.0	33.9

TMDI : 理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

(参考)

これまでの経緯

- 平成13年12月20日 初回農薬登録（非食用）
- 平成14年 4月24日 初回農薬登録（食用）
- 平成15年11月13日 農薬登録申請（大豆、キャベツ、ピーマンに係る適用拡大申請）
- 平成16年10月 5日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
- 平成16年10月 7日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成16年11月 2日 第19回食品安全委員会農薬専門調査会
- 平成16年12月 2日 食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表
- 平成16年12月 9日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会へ諮問
- 平成17年 1月26日 食品安全委員会（報告）
- 平成17年 1月27日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
- 平成17年 3月 2日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
- 平成17年 3月28日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
- 平成17年 6月13日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
- 平成17年10月25日 残留基準値の告示
- 平成17年 5月26日 農薬登録申請（はくさい、ブロッコリー等に係る適用拡大申請）
- 平成17年10月 4日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
- 平成17年10月 6日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成17年11月29日 残留基準の告示
- 平成18年 7月18日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について追加要請
- 平成18年 7月20日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成18年 9月25日 第4回食品安全委員会農薬専門調査会総合評価第二部会
- 平成18年10月 4日 第4回食品安全委員会農薬専門調査会幹事会
- 平成18年10月26日 食品安全委員会における食品健康影響評価（案）の公表
- 平成18年11月 8日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会へ諮問
- 平成18年12月 7日 食品安全委員会（報告）
- 平成18年12月 7日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
- 平成18年12月11日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
- 平成19年 2月26日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
- 平成19年 5月31日 残留基準値の告示

- 平成20年 1月 7日 農林水産省より厚生労働省へチアメトキサムの残留基準の改正に伴う残留基準見直し依頼
- 平成20年 1月11日 厚生労働大臣から食品安全委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
- 平成20年 1月17日 食品安全委員会（要請事項説明）
- 平成20年 2月15日 第35回農薬専門調査会幹事会
- 平成20年 2月28日 食品安全委員会（報告）
- 平成20年 2月28日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
- 平成20年 9月18日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会へ諮問
- 平成20年12月 9日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

●薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

- | | |
|---------|--|
| 青木 宙 | 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授 |
| 井上 松久 | 北里大学副学長 |
| ○大野 泰雄 | 国立医薬品食品衛生研究所副所長 |
| 尾崎 博 | 東京大学大学院農学生命科学研究科教授 |
| 加藤 保博 | 財団法人残留農薬研究所理事 |
| 斉藤 貢一 | 星薬科大学薬品分析化学教室准教授 |
| 佐々木 久美子 | 元国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長 |
| 志賀 正和 | 元農業技術研究機構中央農業総合研究センター虫害防除部長 |
| 豊田 正武 | 実践女子大学生生活科学部生活基礎化学研究室教授 |
| 松田 りえ子 | 国立医薬品食品衛生研究所食品部部長 |
| 山内 明子 | 日本生活協同組合連合会組織推進本部 本部長 |
| 山添 康 | 東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座薬物動態学分野教授 |
| 吉池 信男 | 青森県立保健大学健康科学部栄養学科教授 |
| 由田 克士 | 国立健康・栄養研究所栄養疫学プログラム国民健康・栄養調査プロジェクトリーダー |
| 鰐淵 英機 | 大阪市立大学大学院医学研究科都市環境病理学教授 |

(○：部会長)